

# 愛の缺乏は

## 永代みち代

「婦人をヒステリーにする」  
 これまで普通世間では、ヒステリーは文明婦人の特有病と思ひなしてゐました。洗練された婦人程一層ヒステリーにかかりやすいものだ、と、醫者仲間でも信じてゐてゐました。その説に比べるとこれはまださのみ一般には知られてゐないけれど、ヒステリーの原因を失戀、或はすべての戀愛に關する神經興奮の状態であるといふ説が、著名な神經專攻學者の間に流行されてゐます。

處が、ペアリイ遠征隊が、エスキモーの間に、長い旅行を試みた結果、野蠻な状態に居る婦人も亦文明婦人と同じやうな事實が發見されました。それと同時に、ヒステリーが失戀もしくは愛情の感傷に原因するといふ學說に、力強い證明が與へられました。そして以上

の發見は、米國第一流の神經病學者であるコロンビヤ大學の、ブル博士の認承をうけたのであります。ペアリイの大陸「北極」の中にグライランドの西岸に住んでゐるエスキモー婦人が、始終甚いヒステリー(彼地ではヒステリーといはず、ビプロットと云ふます)にかゝる事が書いてあります。子供は決してこのビプロットにかゝらない。男子も亦めつたにかゝらない、たい婦人がとすると、毎日のやうにこれに冒されるとかいはあります。

「患者は決して婦人で、けたたましく呼んで、自分の着てゐる物を引裂うとする、時よると水の道をうらちを叫びながら半哩ばかりも走り廻る、發作は普通一時間前後で、氣も甚いものになると、すつと裸足のまゝ、とめどもなく氷の上を走り廻つて、若し誰かい連れかへりでもしなければ、凍え死んでしまふ」ペアリイは更に「此發作が屋内で起つた場合、患者が刃物をとるか、それとも誰かに打ちかゝらうとしない以上は、誰もさのみ氣にもとめないで、さしたるビプロットとも思はない、放棄して置く」と、患者はしまひにばつてしまふ、眼は充血し、脈搏は波のやうに體を走り、一時間以上も患者をふるえさせてゐる」と書いてゐます。

(一)イナール(四十才)發作の間、狂氣のやうになつて、誰か頼めにかゝらうとするやうな言を吐いて、その時、彼は島の鳴響をまねて、天井に飛びつかうとするにあら。

(二)エスキモーは發作中何れも手近にある物品を取つて投げつける。木だの建物だの例で、高い壁をなげける。

例をあげれば限りがありません。マツク、ミラン教授はこの病氣の原因を次ぎの如く説明しました。

「此病氣を持つたエスキモー婦人は、多くは良人から愛されず虐待されてゐるものに多い、して今一つの場合は愛の缺乏である。一體エスキモー婦人は早婚で十二歳で嫁入ります。二十歳近く未婚でゐると、ともすればビプロットに冒され勝ちになる。

早婚晩婚は顔の美しいと然らざると、それによればばかりではない老練必ずしも不美人でなく、人をひきつけるだけの美貌と愛嬌を持ちながら、彼女が若し家貧しくその日の生活におはれる者であつたなら、野蠻なエスキモー青年も金權の勢力におそはれて、誰一人かへりみやうとするものがない。

此處に於けるブル博士は、この文明婦人に於けるが如く、この野蠻婦人のヒステリーも亦、愛の缺乏に因するものと断定しました。

エスキモーは一口に云へば野蠻民族であります。而して没道徳の犬や、猫と同じく、男子の財産の一部分だと思はれてゐます。ですから結婚なども至極御都合主義から割出されて、もしやまゝ行かれば、何度でもその女房をとりかへて平氣なものであります。中には夫婦得心づくで、知人の夫婦と入れ更るやうな場合も少くありません。雖縁はあたりまへの事でも、もう女房が鼻について來ると、もうお前を疑ふ場所はないから出て行けと追出すのであります。

斯うした階級の婦人達を、今の最高の文明に生きて行く、而も純粋な戀愛に生きて行く、と、今の人達と比較するのは、まことに失禮な、當を得てゐない話ではあります。實際エスキモーの婦人もヒステリーになり得る資格があるやうに、又戀愛を強烈な戀愛をする能力も持つてゐるのであります。此點に於ては或はエスキモー婦人の方が、現代の新らしい女よりも一層純に、一層進歩してゐるかもしれせん。(をばり)